

(抜粋)

平成五年

1993年

自 第五百一十二回
至 第五百五十四回 宇都宮市街地開発組合議会全員協議会会議録

宇都宮市街地開発組合

金が生み出されたいとおもふ事実なわけや、この果実について有効な利用の方法をそろそろ考へてもいい時期なのではないかと思つわけです。

工業団地が造られたあととなるわけですが、約十年前、國からテクノボリスの指定を受け、我々も夢を持つて、このテクノボリス構想を実現していったのですが、その一番最初の時には、新都市交通システムなども、テクノボリス構想の指定を受けて進めたという話がありましたが、財政事情その他で夢のような状態におなれていたのですが、これだけの果実があるとすると、これを利用すれば新交通システム等が夢ではなくて、実現の可能性がかなり高くなってきたのではないかと思います。テクノボリスに開拓して交通量が増大して、橋をかけようが、道路を造るうが、とても追いつくような交通量ではなく。何か方法を講じないと、朝晩のラッシュ時にはえらい混みようがあるので、新交通システム等の事業に使えるような方回りで、ぜひ検討できないかとこうことです。

私は県議会の本会議で三回ほど質問したことがありますが、県の答弁はその都度、キロ単価が十億ぐらり上がって来る。初め五十億かかるといつたのが、那次質問すると六十億、那次質問すると七十億になるといつたとや、財政的な負担にたえられるかどうかといつたのをキロ單価二十億とか、三十億の交通システムある。私もいろいろ資料を集めているのですが、その過程の中で出て来た話ですが、四国鉄がJRになつて、くるくる商売熱心になつて、新しく交通システムなどといつても、かなり研究を進めてくる。これなんか、西回、五十億あれば、大体駅東からタクノボリス間がやきるようなんですが、こうこうものにつづいて、今すぐお答えを頂戴するといつたのはいかないと思いますが、いよいよ組合長、副組合長として、知事、市長がおられるのだから、そのトシア聞でぜひ実現化について話し合いを進めていただければ大変ありがたいと願ります。今日のところは所感だけで結構ですが、聞かせて下さる。

○組合長（渡辺文雄君） 今、話がいきませんけれども、とにかくとつながり、率直に申しますが、私が知事になりました頃は、市街地開発組合の土地が売れ残つていて、くるくる転売して、最後の頃だつたときに、市長さんや議員の皆様のお力添えで、お譲りで全部売ることができたのですが、その結果、若干の利権等も出、当初の予定等もありました。余裕金があるといつて、確かに、全国の地方球場では折り立派な野球場を造らせて下さったが、また、屋内体育馆もでき、今や宇都宮市のみなみずくに興民に喜ばれてくるわけです。特に、工業団地に進出をしてくる工場で働く人たちに大変お役に立つといつたと聞いております。その後、私知事になりましたから、しばらくいたちまつて、空き地のままのといつぱいもござるものや、不動と見ていましたが、建設の事務局長にどうなつているかと話をしましたが、土地が売れたからこそのやうなのが、あとは知らないこと

左回へ経緯で生れた
工葉園でふるいはここで働く人たちにいいと
ふるいは宇都宮市の街づくりにと
日々考えている。

白立

ミドリ十

住友ベック

② 土地統計(時価で)

約100億円

うのではなく、市に対する固定資産税という財源の問題、儲け口を増やすという本来の工業団地を造った目的からすると、この土地たちも工場が出来て働く場所ができるといいわけですから、土地が売れたらいいではない、何か約束はないのかと聞いたところ、半年以内に工場を建てるという約束がある。それでは工場を造らないで、お送りしてしまおうとは出てこないで、来たくともうといふのも大勢あるわけだからそういうのでも、最初は業の会社で、ミドリ十社は、致し方ありませんとこういふことでお返しする仕組みとして、田中で土地を売ったから田中を返して、組合のものとして、組合が地上が屋みたいなことになりちゃったのですが、その時まで新しく建築をして、その当時の時価で売る。次に、一番大きな土地を持っていた田中がやはりどうなんだと聞いたら、申し訳ない、当社としてはしばらく見合わせたいとこうことで、快く田中の土地を返してもらいました。そのあと幾つかの会社にすぐ売れたので、相当の差額が入ってらる。きょう、局長から申しました住友ベーカーライトも申し訳ないとこういふこと返してもらいました。その間の地価の上昇の差の分だけが結果的に組合に入ってきた。それが約百億の金額になつております。したがって、その百億の金を何か新しく使ふとすれば、今後、組合が住宅団地を造るとしても、新しく工業団地を造るとしても、多少運転資金みたいなものが必要かもしませんが、借金をしていけばいいわけですから、たまたまそういう経過で生まれたお金の使い途として、工業団地あることはそりで働く人たちたどりでいいこと、あるいは宇都宮市の街づくりバス何かなどなどいつも、私自ら常に考えしております。

一方、交通問題に関連しまして、いろいろな構想がみられます。いろいろな団体からの提案がいくつもありますが、大きくなれば東京から宇都宮を通り、大谷間を地下鉄を造るとか、新しく鉄道を造るとか、モノレールを走らせるとか、いろいろな話がありまして、私もかなり突っ込んだ勉強をさせておりますが、いかんせん、今、そういうことを県内といふやるもしましても、当然住宅があり、また、その周辺を高くしてしまふ。國の方に大幅な助成制度があるわけではありませんし、それを借金をしてやつたとしても、これだけ車社会における人々が乗つてぐるるがわからないといふ、採算その他で一の足を踏むところのが現実でございまして、局長さんがさりげなくしゃつた県議会の論議の中でも、県の考え方があつて、やはりきつしなかつた理由なんあります。

別途それはそれで、いろいろ突っ込んだ勉強をさせました。一つは地下鉄、二つ目はモノレール、三つ目はガイドレール・バス。道を二階建てにして、二階の道はバスしか通れない。しかもそれは、ガイドレールつきだから無人運転も可能であるというようなもの。一番高いのは地下鉄でキロ百億近くかかる。とてもじやありません。モノレールはぐつと安く四、五十億ぐらい。ガイドレール・バスは三十億前後。もし仮りに、これを宇都宮市の東の方に十キロ延ばすとしたしますと、三百億以上の金がかかるが、このガイドレールつきバスが一番安くなることだ、名古屋の方で実施設計の段階で動き出したところを聞いております。また、新

1. 芳賀工業団地と清原工業団地の間に出来たニュータウン
とJR宇都宮駅と結ぶ新交通システムの便益を追求する
2. 財源として100億を作つ。今後どこで止めておく
3. 構想が出来たら県と市、バス会社にも出資してもらう

増税: ランニングコストは
相手を赤字とする
赤字から出資する

しい工事手段で、一つはモノレールとロープウェーの中間みたいなもの。もう一つはモノレール。イスなんかに行きますと、モノプランに登るのに、数十人乗りのボケットがありとこう間に山頂まで行つてしまつ。あれを水平に走らせるという形で、新交通システムとして脚光を浴びてきている。運輸省がかなり乗り気であります。

一方、モノレールとロープウェーの中間的なものについては、JRの方でもかなり勉強をしてくるところという話が一つあるといふことと、今、そういう経過でたまたま市街地開発組合の審議された白書前後の金があるところになると、市街地開発組合のほかに栃木県で造成した赤字の工業団地がありますが、芳賀の工業団地と清原の工業団地と宇都宮市がつくるテクノポリスの全体の計画の中に、その中間に新都市をつくるといふことで、住宅公団の用地の買収等も始まり、そこには県も工業技術センターを造り、産業技術学校を造らなければならぬといふことが今後計画の中に入つてくると思いますので、かなりの人口集積が将来考えられるといふことになりますと、これから先、芳賀工業団地と清原の工業団地の間にできるニュータウンとJR宇都宮駅を結ぶ新交通システムをもう少し勉強を進める。そのための財源として百億を使う。一応、今の段階ではピンドで止めておいて、構想が出来ましたら、県と市、バスが通るとすれば、バス会社にも出資してもらつとうようならなければいけないとこう感じを持っています。

これから市民さんの方に、相談申し上げたいのですが、新交通システムで一番安いものだと、キロ十五億とこう説かれる。そうしますと、もし清原の方に八キロから十キロ延ばすとしまして、百数十億で出来る。ほとんど市街地組合の持つてある金が工業団地で働く皆さんの交通の利便に大変なプラスになるなどと、感じだけで恐縮ですが、考えてくるわけではありません。

七番(増税質問) 当然事業をやるけれども、採算性といふことがすぐ二畳田こじらへるのですが、公共交通を運営してくるのは、東京都が一番大きい、交通局でやつておりますが、東京都の交通局の事業の中で、黒字の路線は上野から渋谷に行く二階建てバスだけで、あとは全部赤字で、一般会計から繰り出しで赤字を埋めてくるわけです。宇都宮も四十万、五十万の都市になって、多分相当なランニングコストの赤字が田んと思ひますが、その赤字が田んかい出来ないのでどういう議論では、行政政治に携わる者として職務を金うしてくるとは言えないのでないかと思つ。やはりある程度の都市になれば、当然負担も覚悟したうえで、街づくりをしていかなければならぬと感づります。

この間、ある余合で黒羽町の後藤議員が、車ひやなければ移動できない地区といふのは、田舎の証明なんだよねといふ話をしていました。我々宇都宮といふ大都市に住んでくる議員が、そういうた問題を黒羽の議員さんから指摘されるようなどではないけれど、私も反省をしたのですが、新交通システム、当初は駅東からテクノ新都市といふことなるでしょうが、これをぜひとも成功させて、やはり車ではなく、脚で交通手段があるのである街は素晴らしいのだという認識がされれば、これはなぜかほどの知事の話の大きな構想の、真

2-3/2

朝日 04.3.24

LRT 巡り意見交換

新交通システム（LRT）をめぐり、福田昭夫知事は23日、推進派の市民団体「駅東まちづくり21」と意見交換した。同団体内のLRT導入推進委員会の奥備一彦委員長代行が「知事は説明責任を果たしていない」と地元紙に公開質問を出し、元紙に公開質問を出した。福田知事が応じた。

奥備委員長代行は、「LRTに前向きだった」とし方針転換の理由を質問。福田知事は「（昨年5月に出た）報告書を見て考えが大きく変わった」と説明を試みたが、奥備委員長代行は文書での回答を求め受け付けなかつた。

宇都宮の市民団体

将来見据え導入を

福田昭夫知事は二十三

日、県庁知事応接室で新交通システム（LRT）導入を求める宇都宮市の市民団体「駅東まちづく

り21」（上野泰男代表世話人）の代表者四人とまちづくりをテーマに意見交換した。「将来を考えた。」と強調。これに対し「LRTが赤字になることは明らか。そう簡単には進められないかな」としてLRTを導入してほしいなどと訴える四人に対し、知事は「既存の鉄道、バスを含めた交換交換会は、駅東まちづくの下部団体である新交通システムLRT導入推進委員会の奥備一彦委員長代行が下野新聞（二月十六日付）に寄稿した「LRT 知事に

質問 調査費なぜ計上しない方針変更、説明責任果たせ」と題する一文がきっかけ。知事がこれまでいたく」と理解させていただく」と理解させめた。

通緒のあり方を勉強させていただく」と理解させめた。 知事は鬼怒川に真と手の整備でいいと思うが、その考え方をあらためて示す。「LRTが赤字になることは明らか。そう簡単に進められないかな」としてLRTを導入してほしいなどと訴える四人に対し、知事は「既存の鉄道、バスを含めた交換交換会は、駅東まちづくの下部団体である新交通システムLRT導入推進委員会の奥備一彦委員長代行が下野新聞（二月十六日付）に寄稿した「LRT 知事に質問 調査費なぜ計上しない方針変更、説明責任果たせ」と題する一文がきっかけ。知事がこれまでいたく」と感じたが、議論は最後まで平行線のままだった。

- 24 -

下野

'04.3.24

知事

赤字明白、橋が優先

市民団体代表者に新交通システムに関する考え方を説明する
福田昭夫知事=23日午後、知事応接室

資料

市民団体「雷都レールどちぎ」の活動

1. 設立 2004年11月 設立の経緯
 (アフターミーティング)

2. 会員数(2014年1月現在) 個人:約350人 法人:25社

3. 活動

市民との対話 行政とのコラボ 勉強会

主なもの ()内は実施年 または 頻度

・『よくわかる交通まちづくり』冊子 (2008)

・パンフレット「いつでも、だれでも、どこへでも」 (2010)

・「人と環境にやさしい交通をめざす全国大会」(2005)

第1回 宇都宮 ; 宇都宮大学(2005)、 第2回 京都 ; 立命館大学(2007)

第3回 横浜 ; 横浜国立大学(2008)、 第4回 東京 ; 東京大学(2009)

第5回 岡山(2010) 第6回 新潟(2012) 第7回 宇都宮(2014)

400～600人／回

・LRTが走行する宇都宮市街の模型 東、西のトランジットセンター模型
 (2005～改良) (2011、2012)

・講演会(毎年1～3回) イベント(毎年3～4回) 写真展(2006～)

キャラバン(2005～2011 計16回) アンケート調査(2009)

・署名活動(2007) 11,890名

・市議会へ陳情書提出(2012) 市長へ陳情書提出(2012)

・視察 ; 富山、広島、岡山 交流 ; 岡山、広島、富山、水戸、浜松

・研究グループ勉強会(月1回) — 2014春頃、宇都宮の運輸連合を提案

・世話人会(1回／月)

平成28年3月定期会議結果(3月23日現在)

2016年

H28年1月LRT事業費申請

番号	件名	結果	自民党												市民連合												自民クラブ												公明党													
			自民				公明				統一 国民党				緑の党				社会民主黨				自民				公明				統一 国民党				緑の党				社会民主黨													
議案第18号	平成28年度宇都宮市一般会計予算	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○						
議案第70号	軌道整備事業の実施について	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○						
議案第71号	市道路線の認定について	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○							
議案第72号	軌道運送高度化実施計画の認定申請に係る道路管理者の意見について	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○							
議案第76号	宇都宮市副市長の選任について(吉田信博氏)	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○							
陳情第16号	LRT事業に関わる都市計画素案10・7-101号宇都宮芳ライフル線平石中央小学校付近通過ルート変更に関する陳情	不採択	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○						
陳情第18号	「LRT整備予算の削除」と「LRT計画の白紙撤回」等に関する陳情	不採択	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
陳情第20号	平成28年度予算「LRT事業費」に関する陳情	不採択	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×

30/4=687

5-1/2
(1)

5/2

平成30年9月定期会議結果 なし

H30年3月工事施行終行、新幹線事業譲り受け

番号	件名	結果	自民党			自民クラブ			市民連合			公明党			共産党			統一立憲																				
			馬上剛	増淵一基	金崎美子	山崎圭一	黒子英明	内藤良弘	金嶋美子	小林紀夫	櫻井啓一	五月女伸夫	熊本和夫	渡辺道仁	塚原毅繁	金子和義	鎌倉三郎	中山勝二	今井政範	舟本芳明	山本正人	福駒昭夫	高橋智恵	今井恭男	福田雅彦	中郷間康久	細谷美夫	南木清一	坂田典功	金岡本	舟橋昭夫	高橋美幸	河野秀二	荒川恒男	渡辺通子	金澤力	綱河秀二	久保井永三
議案第94号	工事請負契約の締結について (今泉変電所新築受変電設備工事)	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
議案第97号	財産の取得について(LRT整備事業用地)	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
陳情第75号	平石中央小学校の敷地を削り、当該学校前に遮断機のない踏切を作らる等問題の多い宇都宮市のLRT導入計画の中止を求める陳情	原案不採択	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×		
陳情第76号	市民合意を得ていらない宇都宮市のLRT建設計画の中止を求める陳情	原案不採択	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×		

36/2

宇都宮市の取組

もっと！ つくる

エネルギーを生み出すと同時に、
地域に利益・メリットをつくる！

芳賀・宇都宮LRTは、家庭アームの燃料や家庭用太陽光等によ
り電力を供給する

地域由来の再生「ゼロ力

アーム一ヶ月平均
28,000MWh
÷
365日
約76.76MWh

トで／

施設
パーク茂原
オマス発電

調達

11
76,000kWh

家庭用太陽光発電等



宇都宮ライドパワーで
家庭用太陽光FIT太陽光
の買取を実施中！
(8.5円/kWh)

供給される電
量1100
再エネ100

宇都宮ライドパワー株式会社

LRTの運行に伴う再生可能
一般家庭で約1,600tのCO2を削減 !!

り換えて…

100tのCO2を削減 !!

利用状況
定路

令和2年度	利用人数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	4~9小計	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和3年度	利用者計	357	280	335	431	463	548	2,414	511	490	483	300	435	571	5,204
	内訳	現金	555	539	590	526	531	484	3,225	669	684	728	486	456	655
	回数券	60	110	161	123	105	96	655	112	99	146	98	111	175	1,396
令和4年度	利用者計	697	716	745	763	703	700	4,324	676	714	761	636	662	747	8,520
	内訳	現金	471	462	481	491	475	285	2,665	296	322	351	312	299	290
	回数券	226	254	264	272	228	207	1,451	176	162	173	142	129	180	4,535
令和5年度	利用者計	733	717	719	883	1,030	1,121	5,203	1,182	1,150	1,191				8,726
	内訳	現金	298	226	213	245	330	260	1,572	251	266	269			2,358
	回数券	120	123	115	107	105	120	690	125	124	94				1,033
令和5年度	IC	315	368	391	531	595	741	2,941	806	760	828				5,335

利用状況
マンドカースマイル石井号

令和2年度	利用人数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	4~9小計	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和3年度	利用者計	42	9	32	30	23	20	156	44	36	48	45	51	54	434
	内訳	現金	68	70	88	71	65	70	432	85	58	72	58	60	89
	回数券	8	10	60	64	51	41	54	330	61	43	60	55	56	691
令和4年度	利用者計	106	89	113	141	86	88	623	107	111	117	83	101	118	1,260
	内訳	現金	77	47	76	90	67	55	412	75	73	71	48	72	68
	回数券	29	42	37	51	19	22	200	10	14	12	6	2	4	248
令和5年度	IC	0	0	0	0	0	0	11	11	22	24	34	29	27	193
	利用者計	124	98	110	111	106	98	647	229	284	258				1,418
	内訳	現金	42	13	16	22	23	18	134	18	19	33			204
令和5年度	回数券	5	0	0	4	1	2	12	6	5	3				26
	IC	77	85	94	85	82	78	501	205	260	222				1,188

※ 令和3年度の利用者計には未就学児(6月4人、7月2人、1月2人、3月2人)、3月の利用者計・内訳・現金には小学生各1人が含まれています。

※ 令和5年10月12日より、大島自治会見量の下校時デマンド利用が開始しました。

《定時定路、デマンドカー共通》

※ 利用人数・運賃収入は大人・障害者・小学生の利用と選挙日臨時運転(100円)の利用を合計したものです。

※ 令和2年度4月の利用人数には無料乗車期間の利用人数が含まれています。

※ 令和3年度より市の高齢者外出支援事業に参加し、回数券を発行。利用人数に現金と回数券利用の内訳を明記しています。

※ 令和4年9月よりICカードの利用が可能になりました。